



“あそび”のちから 親は誰も我が子の将来を思いやり、ちゃんとお勉強をして欲しいと願うものです。この“勉強”と“あそび”は、とても興味深い相関関係にあります。この関係性を理解すると、お子さんをよりのびのびと、そしてなんにでも興味関心を抱いて自ら学ぼうとする子に育てることが出来ます。“勉強したの？”とは聞いても“遊んだの？”とはあんまり聞きませんし“勉強しなさい！”とは言っても“遊びなさい！”とは言いませんよね。勉強が良くできる子は、目的意識がはっきりしていて集中力が高いものです。でも、「暑くて」とか「うるさくて」集中できない！といったことは聞きます。片や“あそび”はどうでしょう。暑くてとか、うるさくて夢中になれないなんてことは聞いたことがありません。どんなに暑くても子ども達は公園に行くと夢中で遊びます。夢中は集中力をはるかに凌駕しているのです。公園でアリの巣を見つけ、夢中で見入る子。その子が昆虫図鑑に興味を示し、ちびっ子虫博士になる！なんて事例は枚挙にいとまがありません。その子が目的を持って、本を選ぶようになったり行動したりするようになったらどうでしょう。“あそび”と“勉強(学び)”を結びつけるもの、それが興味・関心・好奇心です。夢中になる姿も、興味・関心・好奇心も全て“本能”です。目的・目標、集中力は“理性”です。本能は、人に指図されなくても生理的に起きるものです。ですから“夢中になりなさい”なんて言葉は存在しないのです。また、好かれたい、興味を引きたい、

褒められたい(認められたい)という基本的な欲求も人には備わっています。パパやママからの「なにやってるの？」とか「すごいね！」とかいう言葉がけは、効果てき面です。その時に本当に子ども達がやっていることに興味を示さないと、魔法はすぐに解けてしまいます。子どもを伸ばすには、“本能”を上手く生かすことがカギになります。この本能のままに育つ期間(時期)は正に今この時です。その間にどれだけ本能の器を上げられるかが、カギになります。では、どうしたらいいの。簡単です！子どものやっていることに興味・関心を持ち夢中になって一緒に遊ぶことです！(笑)

あ・そ・び(本能)	勉強(理性)
夢中	集中力(高↔低)
興味・関心・好奇心	目標・目的
環境選ばず	環境づくりが必要
順番は要らない	点数や順番がつけれる
非認知能力	認知能力

【5月スケジュール】

- 春 10(火) けやき
 - の 12(木) ひのき/予備日19(木)
 - 遠 17(火) あじさい/ 23(月)
 - 足 18(水) ふじ
 - 24(火) 避難訓練
 - 27(金) ファミリーデー(制作)
- ※父・母の日をファミリーデーとして運営していきます。
- [月] 課外英語(けやき・ひのき)
 - [月・水] 午後/ピアノレッスン
 - [水] 保育英語(あじさい・ひのき・けやき)
 - [金] 午前/体操 午後/課外新体操 キッズダンス

我が家の子育て2022② ふじ組 関家編

わが家には4月でふじ組に進級した息子がいます。ちょうど1年前は慣らし保育に通い始めた頃で、パパ・ママの発音もつたない状態でした。たまたまパパも昨年4月に部署を異動して、この1年間は色々なことを吸収しました。ですが、アンパンマンのキャラクターや数字、野菜の名前などを覚えた子供には到底敵わないと感心しています。

また、最近はその日に遊んだお友達のお名前も教えてくれるようになり、コミュニケーションが上手になってきているのを感じています。一方で、自分の中のルーティーンを崩されたくないのか、せっかく暖かくなってきたのに未だに手袋をつけたがったりするなど、悩まされることも多いのですが、親子共々成長の過程を楽しんでいきたいと思っています。



新企画！！フリー保育士の先生たちによる

「キッズでの子ども達との日々」
② 和田 美香 先生

久々の保育園でのお仕事1年が経ちました。毎日 かわいらしい子どもたちに元気をいただいております。

少し大きい我が子達にも「ママ、楽しそうだね。」と言われるます。

フリーとしてクラスに入り、できなかったことができるようになった お子さんの成長をそばで感じます。

優しい言葉をかけてもらい 心が温かくなることもあります。

新たな気づきがあり こちらが成長させていただいていると感じます。

これからも すすくと育つキッズの子どもたちの成長を見守っていききたいと思っています。

4月25日 ふじ組の“藤棚”満開！！

【5月表題絵柄について】～菖蒲(あやめ)に八橋(やつはし)～ 花札での「菖蒲」の読み方は「しょうぶ」ではなく「あやめ」で、絵柄のモチーフとなっているのは「あやめ」ではなく、八つ橋の近くに咲く「杜若(かきつばた)」です。「あやめ」と「かきつばた」は、「いずれ菖蒲(あやめ)か杜若(かきつばた)」という故事があるように、その花のかたちがとてもよく似ています。「八橋(やつはし)」は、三河(愛知県)にある「八つ橋」という地名が起源で、「伊勢物語」の在原業平(ありわらのなりひら)がこの地に咲いていた「杜若」の花を見て、「からころも きつつなれにし つましあれば はるばるきぬる たびをしぞおもふ」と旅の歌を詠んだことでも知られています。ちなみに、この和歌は「折句(おりく)」と呼ばれ、頭文字をとると「か・き・つ・は・た」になります。習志野市内の香澄公園の「ショウブ池」では、明治神宮より株分けされたショウブが、八橋を渡りながら観賞することができます。是非お出掛けになってみてください。